## 第66回

## 堀り 切的

## 峠

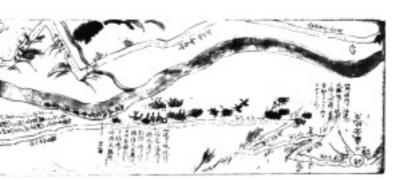
辺)を結ぶ南郷街道 .福島県南部、塙町周 戸 ِ ك 鄓 州

を南北に貫く道は、 ともいう)です。同 された道 れらを結ぶ東西道や 倉道などがあり、そ 他に陸前浜街道、棚 じように水戸藩領内 る、江戸時代に整備 ぼ同じルートをたど 国道一一八号線とほ (南郷道) は、現在の (「往季)

上交通も急速に発達したのが江戸時 河川や湖沼を結ぶ水

郡里程間数之記」(以下「間数之記」)た加藤善兵衛(寛斎)が書いた「北 この南郷道については水戸藩の地誌 稿では以下「南郷道」と記します)。 郷往還」と称されるべきでしょう(本 び名はこの五街道についてのみ使わ がもつ脇往還とに区分して整備さ 中・奥州道中)と、管理責任を領主 に記述が散見されます。中でも代表 れますので、正確には「南郷道」「南 いますが、「街道」「道中」という呼 という書物です。 (東海道・中山道・甲州道中・日光道 宿駅には伝馬制度が敷かれまし 般に「南郷街道」と称されて 水戸藩の下級役人であっ 道は幕府管轄の五街道 寛斎の記述してい

> い切れませんが、大きく外れることる道が必ずしもすべて南郷道とは言 はないと考えられます。



常陸国北郡里程間数之記」堀切峠 『山方町誌 上巻』、原資料は国立国会図書館蔵)

塁状になっていてあたかも堀底道で切峠の名の由来は、峠道の両脇が土 落馬シテ溺死度々アリ、 ケガアリ死ス」「此辺下リ通行ノ旅客 保内エノ往還大難場トス、 でしょう。「間数之記」には「此所 あるかのようなところに由来するの ある堀切峠 て現れるのが、 、此嶺ノタメ苦悩ス、アルヒハ折々 る堀切峠(殿山峠とも)です。堀現れるのが、盛金地区の曽根山にここで「南郷道中の大難所」とし 通行ノ旅

この道が、明治以降もしばらくは使

われていたことを意味しています。 峠を越えると現在の大子町西金に

リテ怪我アリ、此洞ノ大難所ナリ」以テ雖防之、年忌トカ云年回ニアタ する場所だったことがわかります。 で、旅人や人馬が度々滑落して死傷 と記され、大子へ向かう際の大難所

▲堀切峠の石塔群



の中期にさかのぼるものもあります。申塔、六地蔵などがあり、江戸時代ものです。同じ場所には念仏塔や庚 年(一九五三)という比較的新しい 観音が四基あります。年代は明治三 十五年 (一九〇二) から昭和二十八 塔のうち、馬を供養するための馬頭 の石塔が立っています。十七基の石 の塚の上には供養塔を含むたくさん それを示すように、 堀切峠の両 ▲堀切峠(南側から)

年三月の震災で影響を受けました ※高村喜典さんに聞き取り調査にご ※現在は堀切峠を越えて大子町側に れました。こうして南郷道の難所、 が、地元の方々の努力により復旧さ 流れを汲むものと考えられます。 近畿地方を中心に分布する地蔵盆の 月下旬に地蔵をまつるという習俗は、 げてのおまつりとなっています。八 だけでなく男性も参加する地区をあ 食をして楽しく過ごすもので、 集まって草刈りをしてお参りし、 蔵と六地蔵をまつる行事が行われて ことが実感できます。 堀切峠の景観が守られているのです。 います。岡平班十八戸の住民の方が は、八月下旬の日曜日に峠の子安地 堀切峠の所在する盛金地区岡 学には十分ご注意ください 通り抜けることはできません。見 会 昨

違いありません。峠の南側

金)に比べると、

大変な難所である

を積んだ馬の通行は命がけだったに

道幅の狭い急斜面の道で、荷物

協力をいただきました。

落のため通り抜けることはできませ 入っていきます。ですが、現在は崩